

大網ロータリークラブ

Club Weekly Bulletin

■クラブ創立：2000年1月13日
 ■例会日：毎週水曜日（12：30～13：30）
 ■例会場：中部コミュニティセンター TEL0475-73-3337 FAX73-4360
 ■事務所：〒299-3251 大網白里町大網450-6 ユアサビル2階 TEL0475-70-0200
 ■会長：宮間 文夫 幹事：大越 将司
 ■広報・公共イメージ向上委員会 委員長 石田 英世 副委員長 小高 徹



2018年11月21日(水)

第20巻 第20号

通巻第880

http://www.oamirotary.com
 E-mail rc@oamirotary.com

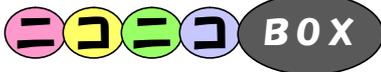


本日の例会

点 鐘 会長 宮間 文夫
 ソング 手に手つないで
 会長挨拶 会長 宮間 文夫
 幹事報告 幹事 大越 将司

プログラム

卓 話 四天木 高中 様
 「素人なりの認知症予防」



柏RC 風澤齊様

今日は、柏RCの燕興君（米山奨学生）の随
 行で来ました。おじゃましますのでニコニコ
 します。

高野祐二会員

一昨日の3クラブのゴルフコンペで優勝しま
 した。

高山義則会員

燕興さん、風澤さん、卓話ありがとうございます。

例会日	11月19日	10月31日
会員数	30	31
出席	19	21
欠席	11	10
MU	0	5
免除	0	1
出席率	63.33	87.10

会長挨拶

大網RC 宮間 文夫 会長

皆さん、こんにちは！ いかにお過ごしでしたでしょうか？

一昨日は、茂原中央ロータリークラブ、成田空港南ロータリークラブ、大網ロータリークラブの3クラブ
 合同の親睦ゴルフ大会がヌーヴェルゴルフ場において、当クラブがホストとして行われました。その際、ゴ
 ルフ同好会会長であります、清宮会員には格別のお骨折りをいただきまして、ホストクラブとしての面目を
 はたせました。会長として心から感謝申し上げます。参加の皆様も満足して帰られたと確信いたします。
 成田空港南ロータリークラブ会長の高田様、そして、当クラブ四之宮会員には、懇親会にわざわざ差し入れ
 を持って参加していただきました。

昨日は、真野会員のお別れの会が智弘院で行われました。ご家族の皆様とお話しさせていただく機会がご
 ざいまして、真野会員がダンディーなロータリアンであったことを再確認いたしました。
 それから佐藤会員の介護に親戚のような人だと感謝されておりました。

智弘院のご住職のお話しの中に、他人からどのような事をされても、恨むのではなく、広い心で受け入れ
 る事が幸福になる手段ではないかという1節がございました。

私は大変感銘し、心の抛り所にしようと思えます。

それでは会員の皆様におかれましては、どうぞご自愛下さいませようご祈念申し上げます、挨拶といたします。
 ありがとうございました。

卓 話

奨学生 燕興（エン・コウ）様 所属クラブ：柏RC



1. 自己紹介

1.1 履歴

皆さん、こんにちは。米山奨学生の燕興（エン・コウ）です。中国
 の河北省から参りました。今は千葉大学融合理工学府の博士後期課程
 に所属しております。私は2013年6月に中国の大学を卒業し、それか
 らの一年間は中国における日本語学校で日本語教師として働きました。
 そして、2014年4月に来日し、千葉大学で研究生一年間、修士二年間、
 博士一年間、合わせて四年間の留学生活を送ってきました。

1.2 研究分野

今の研究分野は会話分析と自然言語処理です。会話分析とは、われわれ人間の自然会話の構造を解析する
 研究分野です。自然言語処理とは、人間の自然会話の構造を機械的に再現させようとする新たな分野です。

1.3 性格

私は人とのコミュニケーションが大好きです。自分の国の人だけではなく、自分の国以外の人々との交流
 も大好きです。今は千葉県国際交流センターが主催した「出前講座」という国際交流事業で外国人講師を担
 当しており、普段は日本の若者との友好な交流活動に積極的に取り組んでおります。また、私は計画性のある
 人だと思います。でも、私は神経質な人もあります。普段の研究では、一つの小さな計算の間違いだとし
 てもそれはどうして起こったのかを一日中ずっと考え続けることはよくあります。それは、研究者としたら
 いい質と言えるかもしれませんが、正直に言いますと、疲れます。でも、趣味の広い人もありますので、
 バスケットボールをやることとか、京劇を聞くこととか、好きなことやることでストレスがほとんどたまって
 いません。

2. 自分の出身国と状況

中国は広い国で知られていますが、よく耳にする都市は北京、上海、広州のような大都市のようです。
 私が生まれたところは「秦皇島」という小さな海岸都市です。秦皇島市は河北省の市であり、北京からバス
 で3.5時間、高铁で1.5時間の道程です。秦皇島市は経済がそんなに発展していませんが、きれいな景色が
 あることで有名です。秦皇島市のたくさんの観光地の中、個人的には老龍頭（ろう・りゅう・とう）と葡萄
 溝（ぶどう・こう）という二箇所が一番おすすめ。皆さんはご存じではないかもしれませんが、万里の
 長城は実は海から始まります。老龍頭は龍の頭という意味のようですが、実は万里の長城の始まりという意
 味です。ワインの産地と言えば、フランスを思い出すかもしれませんが、実は中国でもおいしいワインを作
 っています。「中国一のおいしいワイン」に使われている葡萄は秦皇島市の葡萄溝から提供されています。

3. 家族

私の家族は普通の三大家族です。父は自由労働者で、母は化粧品のお店をやっています。父と母は田舎で知
 り合ったので、老後は田舎で農業をやり、二人暮らし犬一匹のような静かな生活を送りたいと思っています。



2018年10月14日～15日
米山梅吉記念館研修旅行
提供：奨学生 燕 興 様



佐藤廣子会員の25年お付き合いしている茂原RC(貸衣装業)の方が、卒業記念の思い出として写真を撮って下さったそうです。ナディーシャさんの着姿も素敵ですね!

クラブよりお知らせ

西日本豪雨災害義捐金について

皆様より頂きました寄付金は、11月7日、指定口座に送金させて頂きました。ご協力ありがとうございました。

送金額 22,000円

4. 日本に来たきっかけ、来てみてどうだったか

言語を教えることが私の夢だったので、大学四年間日本語を専攻し、卒業してから中国における日本語学校で日本語教師として働きました。そして、日本語教師として働いていた期間中に、自分自身の能力不足を非常に感じて、やはり日本の大学院で研究や専門分野の勉強などをする事によって、将来の日本語教師としてあるべき能力と素養を身に付けることが日本留学の一つの目的です。

日本は世界で一番道徳水準の高い国だと思います。例えば、公共の場で財布、携帯電話などが盗まれる事件が少ないです。いまだに無人の野菜売場がたくさん存在しています。また、災害などが起こっても、暴動などを起こすことはほとんどありません。そのような高い道徳水準に感心していることは日本を留学先に選んだもう一つの理由です。しかし、日本へ留学に来たのは、以下の三人の日本人の影響が最も大きいと思います。高倉健、小野二郎、富樫勇樹は私が憧れている三人の日本人です。富樫勇樹はバスケットボール選手として、身長はわずかの167センチですが、逃げずにNBAまで挑戦に行くと知られています。彼は身長の高さを補うためにスピードやシュートを磨いていった結果、今のプレースタイルが確立されたと言えます。寿司というのは、ネタとシャリがほとんどで、かなり構成要素の少ない食事だと言えます。小野二郎さんは、これをさらにシンプルにすることで、別次元のものへと昇華しています。そういった職人の精神は現代社会ではなかなか珍しくて、ここから感心しております。しかし、三人の中で一番尊敬しているのは、やはり高倉健さんだと思います。高倉健が出演した映画は全部で204本もあります。すべてを見ることはできませんでしたが、その中で彼がしゃべるセリフをおおざっぱにカウントしたところ、「すみません」「お願いします」「ありがとう」がベスト3でした。

上記の三人に現れた日本人の研鑽の精神、挑戦の精神、自己批判と謙虚の精神に憧れていることは日本留学の一番大きな理由です。

日本(人)が好きな理由 研鑽の精神 挑戦の精神 自己批判と謙虚の精神

5. 将来の目標と夢

人生のそれぞれ段階でそれぞれの夢を持っていました。小学校時代の夢、中学校時代の夢、将来の夢という流れで「私の夢」という話題について語りていきたいと思えます。

90年代の中国では、少林寺映画が大人気でした。少林寺映画に強く影響され、将来少林寺の武僧になりたいと思っている若者が結構いました。当時、小学生だった私もその中の一員でした。しかし、あくまで現実的な夢ではないので、親に強く反対されたうえやめました。

2001年、少林サッカーという映画が大騒ぎでした。その映画の影響で、サッカーが好きになりました。それは親にも賛成され、秦皇島市のサッカー専門学校でプロな訓練を受けていました。残念ですが、ある試合で大きなけがをしたので、涙ながらサッカー選手の夢をあきらめました。

将来は、中国の大学で教授をやりたいと考えております。日本で学んだ知識と日本での見聞を中国の若者に教えたいと思います。普段は、料理を作るのが大好きで、副業として、自分のレストランをやりたいと思えます。

6. ロータリアンとの交流について、嬉しいことや楽しいこと

6月20日(水)の柏ロータリークラブの最終例会に参加させていただき、本当に楽しかったです。粗末なスライドで自己紹介をさせていただきましたが、皆さんが笑顔で答えてくださり心が温まるように感じておりました。途中で、柏市の市長にもお会いできました。市長は背が高く、とてもハンサムな人です。また、皆さんのスピーチから「半端ない」という日本語を初めて勉強できました。ロータリアンの皆さんは優秀な社会人であるとともに、温情に満ちた方々でもあると実感しております。例会を通じて、キャンパスでなかなか触れない知識を学ぶことができ、私のような普通の学生にとって、贅沢かつ貴重な機会であることに間違いありません。

7. 米山奨学金やロータリアンのおかげで変わったこと

7.1 物事に対する考え方が前向きになった

米山奨学金のご支援をいただく前に、アルバイトと学業ではほぼ毎日のようにバタバタしていました。そこで、物事に対する考え方もやや消極的でした。米山奨学金のご支援をいただいてから、周りに認められたように感じられ、考え方も前よりずいぶん前向きになったと感じています。それに、ロータリアンとカウンセラーと深く交流でき、家族のような安心感に包まれているように感じております。そのような安心感はこの後の留学生活の大きな支えになることに間違いありません。

7.2 社会に還元する意欲がわいている

米山奨学金のご支援をいただく前の人生では、社会に還元することについてあまり深く考えていませんでした。米山奨学金のご支援をいただいてから、「奉仕」に対する理解を深めながら、社会に還元する意欲がどんどん湧いてきています。将来、奨学期間が終わっても校友として私のような留学生の支援をしていきたいと考えております。

7.3 研究者としての命を救ってくれた

研究者にとって、経済的には独立できないと、研究はなかなか続けていけません。米山奨学金のご支援をいただく前に、狭き門として知られている「日本学術振興会」の研究費の申請をしました。その結果、ぎりぎり不合格でした。当時博士一年生の私にとって、これからの二年間は、研究資金がないままに研究をやり続けなければならないことを意味しています。米山奨学金のご支援をいただくことは、研究者としての命を救ってくれたと言っても過言ではありません。ですから、そういった恩情はいつまでも心に刻んでおります。

経済的な支援のほか、米山奨学金が我々留学生に貴重な交流機会と奉仕の心を学ぶ機会を提供してくれるのです。「一か月に一箱のタバコ代を節約して奨学金に」という、米山奨学事業が始まった頃の合言葉から、ロータリアンの胸における奉仕、世界平和の理想に対する強烈な信念を感じることが出来ます。ですから、ロータリー米山で学んだ知識、育った信念は私の今後の人生を変える力があると信じております。

8. ロータリーの精神に対する理解

ロータリーの精神というのはなかなか説明しにくくて、奥深いものだと感じております。もしかして、ロータリアンの間にも解釈が若干異なってくるかもしれません。ロータリーの精神と、奉仕の精神が中心であると考えております。一般的な理解として、奉仕というのは、自分のことだけを考えずに、廻りの人のことも考えて行動することを奉仕と言いますが、ロータリーという奉仕は若干異なり、自分を犠牲にしての奉仕を求めているわけではなく、利己と利他を調和させさせる奉仕のことを指していると思われまます。または、ロータリーでは実践を重視しますので、実践のともなわない奉仕は考えられないと思われまます。私の理解として、奉仕することは終わりではなく、幅広い奉仕をすることによって、我々を偏見と狭い信念の束縛から解放してやがて人々の中に相互理解と博愛の心を育てることが最終的ではないかと考えております。